



地震

## タイトル： 従業員の安全確保と発生後の早期復旧を目指し新工場建設

### ポイント

- 南海トラフ地震発生を見据えた従業員の安全確保と早期復旧を目指した新工場建設
- BCPを策定したことがHACCPのマニュアル作成に役立っている

### BCP策定のきっかけ

- 同社は、宮崎県内では2番目に規模が大きい精米業者である。
- 南海トラフ地震による津波被害を危惧し、宮崎市の津波ハザードマップを確認。本社がある宮崎市吉村町が南海トラフ地震の際には2m～5mの浸水地域に当たることが分かった。
- 南海トラフ地震による影響を防ぎ、生産体制の機械化、省力化を図るため、本社から7km離れた場所に工場を移転新設することになった。工場の移転先は5m程度かさ上げされており、浸水地域には当たらないものの、海岸近くに立地しているため、地震・津波浸水時の対応を定める必要性を感じた。
- また、過去に発生した災害では、水の確保が困難な中、緊急支援物資として無洗米を求められることが多い。災害時の救助用主食である米の安定的な供給を維持することが住民の安心安全につながるため、その点からもBCP策定に取り組むことになった。

### BCP策定時の課題と解決方法

- BCPの策定方法について相談したいと考えていたところ、知り合いの会社からよろず支援拠点が多様な相談に対応してくれるところだと教えてくれた。このため、宮崎よろず支援拠点に相談に行ったところ、本社だけでなく新工場予定地も海岸に近いのでハザードマップで周辺地域も含め危険度を調べることで、また、南海トラフ地震による津波等の有事の際に役に立つよう地域の関係機関、社員も巻き込んだ計画を作ることなどのほか、新工場建設にかかる資金調達についてもアドバイスをしてくれ、無事に進めることができた。

### 策定した内容

- 旧工場では、機械設備は1階に設置していたが、機械設備が浸水すると、復旧に1年近く要すると見込まれる。このため、新工場では、2階に主要な機械設備を設置することとし、防災対策を強化することにした。1階は、米の一時的な集荷場とし、機械設備は、貯蔵タンクと、モーターを入れ替えるだけで復旧可能な集塵機のみ設置することにした。

### BCP策定後の効果

- 新工場は2021年6月に完成。工場の主要機械とともに精米後の商品在庫を2階部分に設置したことにより災害時の救助用主食の安全確保することにもつながった。また、従業員の安全を確保することにもつながったため、安心して作業することができる。
- 新工場は、HACCPに対応できる施設として2021年に認証を取得。BCPの考え方は、HACCPの危機管理と類似しており、BCPを策定したことがHACCPのマニュアル作成に役立っている。HACCP取得後は当社の危機管理対応への取組が評価されるものと考えている。



新工場1階



新工場2階

### 【会社概要】

企業名：株式会社宮崎アグリライス販売  
所 在：宮崎県宮崎市吉村町前田甲1198  
資本金：100万円  
従業員数：14名  
業 種：米穀類卸小売業  
企業HP：<http://www.agrice.co.jp/>

### 活用施策

- ・宮崎県よろず支援拠点
- ・新型コロナウイルス感染症対策  
挑戦支援資本強化特別貸付